

令和7年度しずおか高校生探究フェスタ【交流部門】
発表情報

教室① A304 教室

発表1 10:20～10:40

学 校 名：静岡県立浜松湖南高等学校

チーム名：聖セミフレッド

タイトル：ことばはあいさつと自然から

系統分類：国際

概 要

本探究では、オーストラリア留学の経験を基に、「日本と欧米の挨拶文化の違い」と「自然環境と言語の関係」の2点を主題として取り組んだ。挨拶という日常的な表現の違いから、各言語の特徴や、日本と欧米における価値観・コミュニケーションの共通点および相違点について考察した。また、プロクセミクス（空間行動学）の視点を取り入れ、日本と外国の自然環境の違いが言語や文化に与える影響を調査し、自然環境と言語の一般的な関連性について探究した。

発表2 10:45～11:05

学 校 名：富士市立高等学校

チーム名：FujiForce

タイトル：さもにゃんプロジェクト！

系統分類：町づくり

概 要

私たちは、富士市がSNSで行っている「#ふじぐらむ」の活動を活性化し、富士市の知名度向上を目指すプロジェクトを考えた。具体的には、市のキャラクター「さもにゃん」を活用する。高校のイベントにさもにゃんを招いて投稿機会を創出するとともに、生徒アンケートを基に「さもにゃん」のLINEスタンプを試作・リリースし、認知度を向上させる。市役所へのヒアリングやスタンプの試作を通して、高校生と行政が協力して地域を盛り上げる方法を実践的に検討した。

発表3 11:10～11:30

学 校 名：静岡県立松崎高等学校

チーム名：総合科学部

タイトル：桜葉漬けの香り成分の抽出方法の検討

系統分類：伝統文化

概 要

松崎町は桜葉漬けの生産が盛んな地域であり、松崎高校ではこれまでに桜葉生産の歴史調査や、桜葉を活用した特産品の開発・販売に取り組んできた。桜葉漬けは、塩漬けの過程で特有の香りを生じることが知られている。本研究では、この香り成分に着目し、食品以外への活用可能性を探究することを目的とした。具体的には、桜葉漬けから香り成分を効率よく抽出する方法として、水蒸気蒸留法、コールドインフュージョン、ホットインフュージョンの三手法を比較し、最も適した抽出方法について検討を進めている。

発表4 11:35～11:55

学 校 名：静岡県立富士宮西高等学校

チーム名：産業2U

タイトル：E-Bike を活用した観光ツアーで富士宮の魅力を伝える

系統分類：地域経済

概 要

町おこしの方法のひとつとして、E-bike を活用し、観光客はもちろん富士宮市民にも楽しんでもらえる地元の観光スポットを巡るツアーを企画する。先行研究を引き継ぎ、E-bike や既存のイベントをより多くの人に知ってもらうためのPR方法の検討や、富士宮市内でE-bike をさらに利用しやすくする取り組みの立案、新しいルートの作成、本校文化祭での体験会の実施などを検討していく。

教室② A305 教室

発表1 10:20～10:40

学 校 名：静岡県立富士宮西高等学校

チーム名：教育文化4D

タイトル：外国人観光客向けの体験を提供し、富士宮の魅力を伝えることはできるか？

系統分類：国際

概 要

市内を訪れる外国人観光客をターゲットとした体験型イベントを企画・実施し、その魅力を発信することを目的としている。他市町村の事例や既存の国際交流イベントなどを参考にしながら、富士宮らしさを体験できるイベントの実現を目指す。また、住民も参加できる内容とすることで、交流を通じた相互理解を深め、外国人観光客を含む多様な人々に「また訪れたい」と思ってもらえる地域づくりにつなげたいと考えている。

発表2 10:45～11:05

学 校 名：静岡県立裾野高等学校

チーム名：STAMINA

タイトル：女性のスポーツ問題について

系統分類：健康

概 要

私達はスポーツをする人を増やしたいという思いから、女性を中心としたアンケートを駅周辺や学校付近で行った。それを踏まえて、自分たちにできることは何かないだろうかと考えた。その結果、この機会を通して少しでも多くの人がスポーツに興味を持ってくれることを願って、裾野市内の小学生(小学3年生～小学6年生)を中心としたイベントを開催した。これからも、このイベントを開催していく。

発表3 11:10～11:30

学校名：静岡県立浜松湖南高等学校

チーム名：Teach Quest

タイトル：教員の人手不足の要因とは

系統分類：教育・保育

概要

私たちは、身近なテーマとして「教員の人手不足」を探究した。本校教員 30 名へのアンケートから、要因として「労働時間」と「給料」の問題が大きいことを発見した。特に、給料では、「給特法」の一律な残業手当が課題と捉えた。改正で教職調整額が引き上げられる見込みはあるが、根本的な解決には至っていない。そこで、勤務時間を明確に記録できる「タイムカードアプリ」を提案するが、虚偽申告や部活動扱いなどの課題も残る。今後は、労働環境改善やアプリ開発の可能性をさらに探究していきたい。教員不足は生徒にも関わる問題であり、先生方の努力に感謝しつつ、より良い教育環境を共に考えることが重要だと感じている。

発表4 11:35～11:55

学校名：富士市立高等学校

チーム名：スポーツ探究科1年6班

タイトル：財布が喜ぶ健康飯

系統分類：その他

概要

探究の授業で行った「AI チャレンジ」での活動を紹介する。入学して初めての本格的な探究活動で、グループワークの基礎と探究のサイクルを確認した。AI を使って身近な困りごとを解決する方法を考え、物価高とアスリートの体を作る献立をAIによって結び付けられないかと提案した。食材の価格変動を予測するAI と、求める体を作る献立を1か月単位で提案するAI をかけ合わせれば、自分で食事を管理しながら活動するアスリートを、経済面でも健康面でも助けることができると考えた。

発表5 12:55～13:15

学校名：静岡県立松崎高等学校

チーム名：桑まっち

タイトル：桑抹茶を使用したスイーツを海外に広めることはできないだろうか!?

系統分類：国際

概要

桑抹茶とスイーツを組み合わせ、海外に広める可能性を探る。桑抹茶の栽培方法や魅力、外国人に支持される理由を整理した上で、ヘルシー志向や間食文化に着目し、軽食系スイーツの商品開発を目指す。ナッツやチョコ、プロテインバーなどを想定し、味への不安を解消するため桑抹茶ティーパックを同梱し、松崎町のご当地キャラシールで関心を高める提案を行う。

教室③ A306 教室

発表1 10:20～10:40

学 校 名：静岡県立掛川西高等学校

チーム名：チーム部活動

タイトル：部活動が変わるとき、「やりたい」気持ちは平等なのか。

系統分類：教育・保育

概 要

近年、中学校の部活動では、教員の負担軽減などを背景に地域移行が進められている。掛川市では、先進的な取り組みが行われている一方で、移行の当事者である中学生に対して、活動場所や指導体制、費用などの具体的な見通しが十分に共有されていない。そのため、生徒や保護者の間には「本当にやりたい活動を続けられるのか」という不安が生じている。そこで、私たちは、部活動の地域移行が、生徒一人一人の「やりたい」気持ちにどのような影響を与えるのかに着目した。本発表では、よりわかりやすく参加しやすい地域移行を実現するための提案を教育関係者に発信する。

発表2 10:45～11:05

学 校 名：静岡県立遠江総合高等学校

チーム名：機械技術系列

タイトル：機械技術で森町を活性化プロジェクト

系統分類：町づくり

概 要

本校は、総合的な探究の時間を「遠高プロジェクト」と名付け、活動している。2年次生は、系列の専門性を活かしながら、地域と連携し、課題解決を目指している。機械技術系列では、森町役場より「ベンチ」「傘立て」「バリケード」の3つの製作課題をいただいた。本校で設計から製作まで行い、役場へ寄贈した。今後は森町役場より、使用した感想（検証結果）などフィードバックをもらいながら、探究の深化を図りたい。

発表3 11:10～11:30

学 校 名：静岡県立富士宮西高等学校

チーム名：産業2D

タイトル：富士宮の特産品をPRし、注目度を上げることはできるか？

系統分類：地域経済

概 要

現在あまり知られていない富士宮市の特産品をPRすることで、市の知名度や経済効果を高めることができるかを探究する。フィールドワークや資料調査、関係者へのインタビューを通して特産品の現状や課題を分析し、比較的知名度の高い富士宮やきそばの事例や他地域の成功事例を参考にしながら、富士宮市において効果的な特産品の発信方法を明らかにすることを目的とする。

発表4 11:35～11:55

学 校 名：静岡県立裾野高等学校

チーム名：くりおね

タイトル：裾野高校合併について

系統分類：職業

概 要

御殿場市内の高校と裾野高校が合併するという話を耳にして、なくしたくないという思いでやろうと思った。校長先生や合併反対と言っている方にお話を聞いて、裾野高校がなくなったら裾野に起きる問題などを調べてそれを沢山の人に広める、裾野高校の価値を市民の人に伝えるために班で案や話をきいてそこから繋げられるように活動している。

発表5 12:55～13:15

学 校 名：静岡県立清水東高等学校

チーム名：のいきゃん

タイトル：騒音問題と逆位相

系統分類：環境

概 要

私達の研究テーマは、騒音と逆位相である。冷蔵庫や扇風機などの身近なものや自動車などの騒音問題を解決しようと思い、私達はノイズキャンセリングに目をつけこのテーマにした。チューナー・冷蔵庫などから音を録り、逆位相の音源を作り、実際に音源元と同時に流し、デシベル変化を測定する実験を進めている。自動車などから発せられる騒音の問題の解決は難しいと考えているが、実験が上手く進めば冷蔵庫の電子音などの騒音問題は解決できるだろうと見込んでいる。

発表6 13:20～13:40

学 校 名：富士市立高等学校

チーム名：パサージュ

タイトル：未来へつむぐ、ローカル線物語

系統分類：町づくり

概 要

本探究は、経営課題を抱える岳南電車を活用した地域活性化を目指した。アンケートやヒアリングを通じて現状を多角的に分析、電子決済導入などの初期案の非現実性を確認し、「低コスト・地域協働」型の活性化策へと方向転換した。非運賃収入確保のため、「擬人化キャラクターの企画」、「全駅周遊ワードラリーイベント」、「地域銘菓とのコラボ商品開発」の3つの連動型プランを企画し、現在実現に向けて動いている。この活動は、論理的な課題解決サイクルを通じて、地域貢献への意欲とシティプライドの醸成に繋がっている。

教室④ B303 教室

発表1 10:20～10:40

学 校 名：静岡県立浜松商業高等学校

チーム名：piochi

タイトル：ピオーネの価値創造への挑戦

系統分類：地域経済

概 要

私たちは、5月にピオーネの調査を開始した。そして、7月に企業向けのビジネスマッチングフェアに高校生ブースを設営し、企業の方々にピオーネのアンケートをするなどの交流を行った。その後、地元企業である春華堂様とピオーネを使用した商品を共同開発し、11月には高校生主催「スイーツフェス」を開催し、販売を行った。その後参加した市民交流フェスタでは、ピオーネに関するフィールドワークや実態調査を行った。これらの調査結果と今後の展望を考察した。

発表2 10:45～11:05

学 校 名：静岡県立富士宮西高等学校

チーム名：チームサイクリング

タイトル：サイクルツーリズムが導く富士宮の未来

系統分類：町づくり

概 要

富士宮市のサイクルツーリズム推進を目的に、市役所企画戦略課・観光課で「宮ぼた」事業を調査した。E-BIKEで名所を巡ることで観光活性化が可能と考え、協力のもと独自にサイクルルートを設計・体験し、その様子をSNSで発信した。地域とE-BIKEの認知度向上を図った。

発表3 11:10～11:30

学 校 名：静岡県立掛川西高等学校

チーム名：ふぁにーていーちゃー

タイトル：アクティブラーニングは、授業設計において“機能する”と言えるのか
—中学校「総合的な学習の時間」における検証

系統分類：教育・保育

概 要

本探究では、いま多くの授業で行われているアクティブラーニング（話し合い・調べ学習・発表など）を題材に、「なぜ授業によって学習効果に差が出るのか」を授業の設計の面から考察する。ねらいは、活動ただけで終わらず、理解が深まるアクティブラーニングにするための条件を整理することである。具体的には、中学校の「総合的な学習の時間」を想定した模擬授業を行い、従来の実践を一部変化させた設計を導入して、その効果を分析する。これらを通して、より効果的なアクティブラーニングの条件を明らかにする。

発表4 11:35～11:55

学 校 名：静岡県立遠江総合高等学校

チ-ム名：自然科学系列

タイトル：鈴木藤三郎を手本にした砂糖事業の復活

系統分類：町づくり

概 要

本校では、総合的な探究の時間を遠高プロジェクトと名付け、活動している。私たちのチ-ムは、鈴木藤三郎を手本にした砂糖事業の復活に取り組んでいる。本校の様々な系列や地域の人との連携に加え、森町の歴史を結び付け、地域の人たちがより積極的に参加しやすい活動への深化を目指す。

発表5 12:55～13:15

学 校 名：静岡県立裾野高等学校

チ-ム名：いのばす

タイトル：公共施設を維持するために

系統分類：町づくり

概 要

私達は、公共施設の維持をトピックにし、その中でも「図書館の利用者数増加」をターゲットとして、探求を進めた。現在、図書館側では、映画の上映やリサイクルブックなどのイベントを催し、利用者数を増やしているという内容を知ったので、イベントの有用性を知り、私達も貢献をするため企画を考案した。そこで、私達の企画をプレゼンを行った結果、2026年1月にイベントの開催が決まり、実施できた。

発表6 13:20～13:40

学 校 名：静岡県立清水東高等学校

チ-ム名：清高ボーラーズ

タイトル：ボウリングでスプリットを倒す方法

系統分類：その他

概 要

私達は、まずボウリングのスコアを高めたいという思いから研究を始めた。どうやればストライクをとりやすいかは、回転をかけて斜めに投げると良いとよく知られているため、スプリットの倒し方を研究することにした。今回は7-10のスプリットについて考察し、衝突力学や回転運動などの物理式を使ってスプリットの倒せる条件を導き出し、最終的には物理シュミレータを用いて検証していく。

教室⑤ B304 教室

発表1 10:20～10:40

学 校 名：静岡県立沼津城北高等学校

チーム名：沼津城北A

タイトル：昔の子ども、今の子ども

系統分類：教育・保育

概 要

数十年前と現在の社会を比較したとき、技術発展の結果生じたメリットとデメリット、両方の側面があると思うが、そうしたことについて調べてみたいと考えた。追究する切り口はたくさんあるが、自分自身が経験し、身近に捉えられる“子ども時代”に焦点を当て、比較してみようと考えた。また、技術発展ですぐに思いついたのがスマートフォンだったので、それを軸に据えて、今の子どもと昔の子どもがどのように違うのか追究した。

発表2 10:45～11:05

学 校 名：静岡県立川根高等学校

チーム名：かわてんライフ

タイトル：かわてんライフ

系統分類：町づくり

概 要

私の地元は静岡県の山間部にある「川根本町」という町である。人口は約5,500人であり、そのうち65歳以上の高齢者の割合は50%を超え、18歳以下の子供は8%を下回っている。すなわち、深刻な少子高齢化が著しく進んでいる過疎地域であると言え、500年ほどの歴史がある伝統舞踊の存続も後継者不足に悩まされている。私は、そんな町に、県外に住む大学生を呼んでアルバイトをしてもらい、この町の「関係人口」を増やす活動を行っている。この活動は、3年ほど前から継続的に行われており、実際に東京農業大学の学生の方々が川根本町に来てくださった。そして、今年度からは、東京農業大学以外の大学にも声をかけ、参加者の増加を試みる。川根本町の住民の皆様や、この活動に長い間協力してくださる地元の企業の皆様にとっても有意義な活動にするために、毎年同じような内容にするのではなく、挑戦と改善を繰り返しながらより良いプロジェクトを進めていきたい。

発表3 11:10～11:30

学 校 名：静岡県立浜松商業高等学校

チーム名：情報研究（仮）

タイトル：情報の伝え方

系統分類：情報

概 要

- | | |
|--------------|---------------|
| 1. 情報研究のイメージ | 2. 情報研究の授業の流れ |
| 3. 授業の内容 | 4. 身につく力 |
| 5. 情報発信の意味 | 6. 情報の伝え方 |
| 7. まとめ | |

発表4 11:35～11:55

学 校 名：静岡県立清水東高等学校

チーム名：Plants

タイトル：植物にどの液体を与えると最も育つのか

系統分類：環境

概 要

私たちの研究テーマは、「植物にどんな液体を与えると最も育つのか」である。研究動機は、人間にとって身近な物質が植物の成長にどのような影響を与えるのかを調べ、植物を育てるときに役立つ知識を得たいと考えたことだ。実験では、塩、砂糖、重曹、お酢の4種類の液体をそれぞれ水道水にとかして、豆苗と成長の差を比較する。その結果から、成長を助ける要因や妨げる要因を考察しながら、別の植物でも実験を行っていく。

発表5 12:55～13:15

学 校 名：静岡県立富士宮西高等学校

チーム名：ふるさとラボ

タイトル：ふるさと納税で富士宮の未来を light に！

系統分類：町づくり

概 要

富士宮市活性化を目指し、ふるさと納税の返礼品を探究した。日用品中心で食の人気が低い現状から、「体験型×食」の返礼品を仮説として設定した。猪之頭振興協議会でのフィールドワークを通じ、自然や食を体感するツアーが地域活性化に有効と実感した。今後は、湧水や酪農体験など具体案の発信を目指す。

発表6 13:20～13:40

学 校 名：静岡県立裾野高等学校

チーム名：APPLE

タイトル：「野生動物による食害問題」からの広がりや解決策の模索

系統分類：環境

概 要

私たちは「野生動物による食害問題」をテーマに探究活動を進め、裾野市役所やJAへのインタビューを通して現状を調査した。その結果、ニホンジカやイノシシによる農作物被害が深刻で、市全体の被害額は約115万円にのぼること、また電気柵の設置費用が高く維持が難しいことが分かった。当初は被害作物を加工品にする案を考えたが、感染症の危険性から断念した。さらに、廃棄された作物が野生動物を再び畑に呼び寄せる悪循環も明らかになった。そこで私たちは、廃棄予定の野菜を再利用して「野菜クレヨン」を作るという新たな解決策を考案した。クレヨンは食べ物ではないため安全で、誰でも簡単に作れる利点がある。今後は、保育系列の親子教室での実用テストや、農業まつりでの販売・体験会を予定している。この活動を通して、食害や気象被害による農作物ロスを減らし、地域農業への貢献を目指す。

教室⑥ B305 教室

発表1 10:20～10:40

学 校 名：静岡県立裾野高等学校

チーム名：特大小惑星

タイトル：農作物の被害を減らすために

系統分類：環境

概 要

私たちは、地域の農業に悪影響を与えている外来植物「セイタカアワダチソウ」に注目し、その繁殖による被害と対策について探究した。地元農家へのインタビューから、繁殖した草によって畑の見通しが悪くなり、鹿などの野生動物が茂みを隠れ場所として利用し、作物を食べる被害が発生していることが分かった。原因として、農業の後継者不足による耕作放棄地の増加、セイタカアワダチソウの強い繁殖力、そして高い草が動物の侵入を助長していることが挙げられる。そこで、「セイタカアワダチソウの繁殖を抑え、野生動物による農作物被害を減らすにはどうすればよいか」という課題を設定した。調査の結果、定期的な除草で見通しを確保することが、鹿の侵入防止につながる可能性が高いと分かった。今後は、地域と協力し、除草活動や防鹿対策を継続して裾野市の農業を守っていきたいと考えている。

発表2 10:45～11:05

学 校 名：静岡県立清水東高等学校

チーム名：清水東高校2年理数科課題研究3班

タイトル：ソフトテニスの「吹く」現象について

系統分類：その他

概 要

進行方向に向かうように前方が下に、後方が上に動くように回転（順回転）している球体が飛翔する時、回転していない時に比べ早く落下に転じる。しかし、ソフトテニスにおいて、順回転をかけているにもかかわらず、球が浮き上がっているように見えることがある。これを「吹く」現象という。本研究の目的は「吹く」が発生するメカニズムを解明することである。そこで、ハイスピードカメラを用い、「吹く」が発生している場合と発生していない場合について、それぞれ様々な角度から、ラケット上でのボールの様子や飛翔中のボールの様子を撮影し、観察した。その結果、飛翔中の球は正面から見て楕円、側面から見て正円になるような変形をしていることが確認できた。今後はこの変形が起こる原因を明らかにするために、ラケットに球が張り付く時間や、ラケットから球が離れた直後の変形に着目して研究を進めていきたい。

発表3 11:10～11:30

学 校 名：静岡県立沼津城北高等学校

チー ム 名：沼津城北B

タイ ト ル：地域から考える気候変動

系 統 分 類：環境

概 要

元々、環境問題、特に気候変動によって引き起こされる自然災害やその対策に興味があり、それについて追究したいと考えていた。一口に環境問題と言っても、その切り口は様々だが、地球的な課題を意識しつつも、それを自分の住む地域にあてはめ、まずは自分の足元から、その現状を理解し、問題解決のための糸口を見つけて行きたいと思ったのが研究の動機である。

発表4 11:35～11:55

学 校 名：静岡県立川根高等学校

チー ム 名：川根高校 北村哲也

タイ ト ル：私の故郷の宝を守りたい～「徳山の盆踊り」を活かした川根本町活性化への挑戦～

系 統 分 類：伝統文化

概 要

私は、「町外観光客の減少」と「伝統芸能の衰退」という故郷の課題解決に挑んでいる。探究内容は、ユネスコ無形文化遺産である「徳山の盆踊り」の活性化である。当初、盆踊りの活性化を観光客増加につなげると考えたが、町の認知度の低さや、演じ手不足による盆踊り自体の衰退という状況がわかった。「伝統を絶やしたくない」という思いから、私が主体となり活動を開始しようと考えた。

具体的な計画は、学内体育祭での演舞披露を通じた魅力発信、地域の中学生への働きかけによる演者増加、そして外部プロジェクトとの連携強化による広報活動である。この挑戦を通じて、盆踊りを「継承の対象」から「町の活性化のきっかけ」へと転換させ、活気ある川根本町を目指す。

発表5 12:55～13:15

学 校 名：静岡県立浜松商業高等学校

チー ム 名：恋愛マスター

タイ ト ル：顔を重視しますか？性格を重視しますか？

系 統 分 類：情報

概 要

- ・IT パスポートとは？
- ・ストラテジ系とマネジメント系の分野から
- ・顔を重視しますか？性格を重視しますか？

発表6 13:20～13:40

学 校 名：静岡県立富士宮西高等学校

チーム名：ヘルスメーカーズ

タイトル：健康マイレージで富士宮市民を健康に

系統分類：健康

概 要

富士宮市の健康意識向上を目的に、健康マイレージ事業を探究した。保健センター健康増進課へのフィールドワークで若者の健康意識向上が課題と判明した。協力のもと、文化祭「紫翠祭」で質問入りビンゴ形式の健康イベントを実施した。多世代の参加を得て市全体の健康意識向上に貢献していきたい。

教室⑦ B308 教室

発表1 10:20～10:40

学 校 名：静岡県立浜松大平台高等学校

チーム名：浜松大平台高校 地歴チャレンジ

タイトル：大平台ブランディングプロジェクト 魅力あふれる大平台～住みやすい町、自然と共に～

系統分類：町づくり

概 要

本校の所在地である大平台地区に焦点を当て、地区の魅力をブランディング（＝価値づけ）する活動をおこなった。本プロジェクトでは、地域住民の方のご協力をいただきながら、オリジナル「大平台マップ」、大平台地区の魅力がまとめられた「大平台ブランディングサイト」（HP）を作成し、魅力の発信に努めた。

発表2 10:45～11:05

学 校 名：静岡県立掛川工業高等学校

チーム名：プロジェクションマッピング班

タイトル：掛川工業高校プロジェクションマッピング ～光のキャンバス～

系統分類：情報

概 要

環境設備科で学んだ測量、製図、3Dモデル制作、映像制作の知識を生かして、校舎をキャンバスとしたプロジェクションマッピングに挑戦した。「掛川工業高校プロジェクションマッピング～光のキャンバス～」イベントの企画・運営までを行った。

発表3 11:10～11:30

学 校 名：常葉大学附属常葉高等学校

チーム名：left

タイトル：糖尿病の対策

系統分類：健康

概 要

食事以外の糖尿病対策として、継続的な運動で筋肉を使い血糖を下げるのが重要である。十分な睡眠やストレス管理はホルモンバランスを整える。体重管理、禁煙、定期的な血糖測定と受診、薬の正しい使用も欠かせない。

発表4 11:35～11:55

学 校 名：静岡県立浜松南高等学校

チーム名：ダンゴムシ日記

タイトル：ダンゴムシの交替性転向反応について

系統分類：生命・医療

概 要

本研究では、ダンゴムシが交替性転向反応を行う条件について調査した。迷路を作成し、壁の角度と高さを変化させたときに、交替性転向反応が何回見られるかを実験した。壁の角度は90度・60度・30度の三条件、壁の高さはダンゴムシより高い15mmと低い2mmの二条件で比較した。その結果、角度では90度と60度で交替性転向反応が見られたが、30度では見られなかった。また、高さでは15mmで反応が見られ、2mmでは見られなかった。

発表5 12:55～13:15

学 校 名：静岡県立伊豆伊東高等学校

チーム名：伊豆伊東 Cチーム

タイトル：どうしたら伊東市が市民からも観光客からも愛されるまちになるか

系統分類：町づくり

概 要

伊東市が市民と観光客の双方から愛されるまちになることを目標に、観光に対する市民の声や情報発信の少なさに着目して探究を行った。調査から若者や初訪問者が少なく、イベント情報やSNSでの発信が不足していることが分かった。そこで、伊東駅周辺の観光スポットを紹介するサイトを作成し、市民へのインタビューを実施した。今後は高校生が関わるイベント「伊東おいしいもの市」の開催を構想し、観光客と地元をつなぐ架け橋づくりを目指している。

発表6 13:20～13:40

学 校 名：静岡県立三島南高等学校

チーム名：ウチらの地元愛（じもあい）広め隊!!

タイトル：地元愛を育む大切さ

系統分類：町づくり

概 要

私たちは自分の地元が大好きだ。しかし、地元の良さを堂々と語れる仲間は少ないように感じる。小中学生が地域情報誌を作る「COLOMAGA project」に参加して、地元の良さに触れてきた経験から、地元の良さ、地域の人が感じている地元の印象、そして私たちが大好きな街で取り組んでいることについて説明する。この発表が、皆さんの地元にも目を向けるきっかけとなるように。

教室⑧ B306 教室

発表1 10:20～10:40

学 校 名：静岡県立浜松南高等学校

チーム名：もこみ

タイトル：指紋に刻まれた遺伝の秘密

系統分類：生命／医療

概 要

本研究では、指紋の種類である渦状・ループ状・弓状の三つに注目し、それぞれの特徴を観察するとともに、個人差について比較を行った。採取した指紋はスタンプを用いて紙面上に可視化し、模様や分岐点などの特徴点を記録して分類した。その結果、指紋は人によって異なる特徴を持ち、個人識別に有効な手段であることを理解することができた。

発表2 10:45～11:05

学 校 名：静岡県立富岳館高等学校

チーム名：SDGs 書道

タイトル：地域の古紙のリサイクル率を高め、書道の魅力を広げよう

系統分類：環境

概 要

富士宮の古紙リサイクル率が低いことや書道の衰退を食い止めるため、校内アンケートと外部調査を行い、古紙や書道に関するデータを収集した。古紙のリサイクル率の現状や書道の衰退原因を整理し、課題解決を目指した。

発表3 11:10～11:30

学 校 名：静岡県立浜松大平台高等学校

チーム名：地歴探究3年A

タイトル：浜松活性化計画

系統分類：町づくり

概 要

自分たちが浜松で暮らしてきた中で、不便に感じたことを書き出し、類似都市と比較することで、どのように改善できるか考えた。特に、交通や観光面から課題をみつけ、その解決策について話し合った。意見を出し合うことで、自分たちの地域を見つめなおすきっかけにもなり、より良い町として発展して欲しいという思いを強くした。

発表4 11:35～11:55

学 校 名：静岡県立掛川工業高等学校

チーム名：電子電気科自動運転ロボット班

タイトル：距離センサを用いた自動運転ロボット

系統分類：情報

概 要

約 30 cm四方の自走ロボットを製作してコース上を走らせる。途中にある障害物などを検知して避けながら、自律的に最適な走行方法を見つけ出し、無事目的地にたどり着くことを目指す。

発表5 12:55～13:15

学 校 名：常葉大学附属常葉高等学校

チーム名：Sweet Potato

タイトル：検査やワクチンを受けよう！

系統分類：生命・医療

概 要

検査やワクチンは、病気を早く見つけて重症化を防ぎ、自分と周囲の人を守るために受ける。体の状態を正しく知ることで適切な治療や予防ができ、集団での流行も抑えられる。社会全体の安心と医療の負担軽減につながる。

発表6 13:20～13:40

学 校 名：静岡県立伊豆伊東高等学校

チーム名：伊豆伊東 Dチーム

タイトル：食べるぐり茶でホッと一息 ぐり茶(リーフ茶)消費拡大に向けて

系統分類：地域経済

概 要

ぐり茶(蒸し製玉緑茶)の消費拡大を目的に、若者のリーフ茶離れという現状に着目し、ぐり茶を食品化する可能性を探究した。渋みが少なく飲みやすいという特性を生かし、クッキーやゼリーを試作・評価した結果、手軽さや美味しさの点で一定の評価が得られた。今後は食品の種類拡大やレシピ発信を通じ、日常的にぐり茶に触れる機会を増やすことを目指す。

教室⑨ B307 教室

発表1 10:20～10:40

学 校 名：静岡県立清水東高等学校

チーム名：田見坂 46

タイトル：AI による故人の完全再現と依存防止を両立させるために

系統分類：情報

概 要

私たちは、AI による故人の再現と依存防止の両立を目的に、残された者が前に進むための手段となる故人生成 AI の検証を行った。参加者 3 名が互いを対象にして、ChatGPT に対象者の特徴（口調、語尾、会話の流れなど）を学習させ、2 週間の対話後に AI と対象者それぞれへ同じ質問を行い、質問に対する回答のコサイン類似度を出した。その結果、類似度が約 0.36 の場合は関心が薄れ、約 0.88 の場合は似すぎる故に不快感や恐怖を覚えることが分かった。一方、類似度が約 0.65 である場合、対象者らしさを感じつつも AI と人間の違いを自覚で、利用者自身が自分の心にブレーキをかけることができ、心理的な距離を保てた。このことから、故人生成 AI においては再現度を約 0.77 (最低でも 0.65 以上 0.88 未満であるため、その中間の 0.77 が最適と考える。) に保つことで、残された者の心の癒しと依存防止の両立が可能であると考えます。

発表2 10:45～11:05

学 校 名：常葉大学附属常葉高等学校

チーム名：書道

タイトル：糖尿病の食事

系統分類：健康

概 要

糖尿病で食事に気を付けるのは、血糖値の急な上昇を防ぎ、合併症を予防するためである。栄養のバランスや量、食べる時間を整えることで、体への負担が減り、薬やインスリンの効果も安定する。健康な生活を続ける基礎となる。

発表3 11:10～11:30

学 校 名：静岡県立浜松南高等学校

チーム名：お願いします 2

タイトル：メダカの記憶力と学習能力について

系統分類：生命・医療

概 要

本研究では、メダカの記憶や学習能力について調査した。簡易的な二択迷路や、特定のエリアに侵入すると軽い刺激が与えられる装置を作成し、実験を行った。メダカが迷路を学習するまでに要する試行回数や、刺激を避ける行動をどのように獲得するかを、繰り返し観察した。その結果、行動に変化が見られ、記憶の保持や学習が行われている可能性が示唆された。現時点では、特定エリアを避けると考えられる動きが確認されている。

発表4 11:35～11:55

学 校 名：静岡県立伊豆伊東高等学校

チーム名：伊豆伊東 Eチーム

タイトル：伊東のゴミ問題を知ってもらうために

系統分類：環境

概 要

伊東の海のゴミ問題を知ってもらうことを目的に、海の魅力と現状を伝える探究を行った。海中清掃に参加した人や環境活動家へのインタビュー、富戸港でのゴミ拾いを通して調査した結果、自転車や家電などの大型ゴミや、瓶・靴などの小中規模のゴミが確認され、潮や地形によって溜まる場所があることが分かった。ゴミをリメイクしたアップサイクルの取組や、使い捨てを減らす工夫の重要性が示された。

発表5 12:55～13:15

学 校 名：静岡県立浜松大平台高等学校

チーム名：地歴探究3年B

タイトル：名産品と発展

系統分類：地域経済

概 要

私たちが目にする浜松の名産品。しかし、その起源とは何だろう？どうして楽器が浜松で発展したのだろうか？どうして浜松でうなぎが養殖されているのだろうか？工業、農業、水産業。そのすべてを紐解くと、意外な起源がある。また、さまざまな変化に飛んでいる現在、産業もこれから変化するのではないだろうか？どのような産業が発展していくのか。名産品はこれからどう変化するのかを考察した。

発表6 13:20～13:40

学 校 名：静岡県立掛川工業高等学校

チーム名：機械科水力発電モデル班

タイトル：水力発電のモデル

系統分類：環境

概 要

水力発電のモデルを作成した。ペルトン水車とフランシス水車の2つを作成し、発電効率の違いについて調べた。

教室⑩ C302 教室

発表1 10:20～10:40

学 校 名：静岡県立吉原高等学校

チーム名：リメイクチョークチーム

タイトル：チョークの粉から香り付きチョークを作ろう

系統分類：教育・保育

概 要

黒板掃除をしていた際に、黒板の下の引き出しに溜まったチョークの粉や短くなって捨てられてしまうチョークを見て、もったいないと思ったことがきっかけだ。私たちは、粉になったチョークから再びチョークを作ることができるのか、リサイクルで作られたチョークに香りをつけることができるのか研究した。結果、リサイクルチョークを作ることにはできたが、香りをつけることはできなかった。原因は、香りをつけた後の乾かす工程にあったのではないかと考えられる。また、他の方法で香りを付ければ、香りが残るのではないかと考えた。

発表2 10:45～11:05

学 校 名：静岡県立沼津西高等学校

チーム名：サバイバルどうぶつ診断

タイトル：サバイバルどうぶつ診断☆災害に強いのは誰だ!?

系統分類：防災

概 要

私たちは、災害時の円滑な役割分担を目指し、動物の習性に例えた「どうぶつ防災性格診断」を作成した。6問の質問で8タイプに分類するもので、校内約200名への調査では自己認識に合う結果が得られた一方、教員は「ゾウタイプ」が多いなど属性による偏りも見られた。現在は、手作業で時間がかかるという課題を解決するため、大学生の協力を得てデジタル化を進めている。これを完成させ、広く一般に活用されることを目指す。

発表3 11:10～11:30

学 校 名：静岡県立裾野高等学校

チーム名：フォレスト

タイトル：どうしたら人間と動物は共存できるの？

系統分類：町づくり

概 要

私たちは、裾野市の課題を解決するための探究学習として「動物との共存」をテーマに活動している。メンバーの多くが動物を飼っており、野生動物とも共生したいという思いからこのテーマを選んだ。市役所を訪問して現状を調べたところ、裾野市では鹿による農作物被害や車との衝突事故が多発していることが分かった。これを受けて、「鹿と車の衝突被害を減らすにはどうしたらよいか」という課題を設定した。解決策として、車に取付けられる小型の超音波装置を考案した。鹿が嫌う20kHz以上の超音波を発することで、車に近づかないようにする仕組みだ。この音は人間には聞こえず、騒音被害もない。トヨタ自動車に協力をお願いし、装置の可能性や課題について意見をいただいた。今後は、実際に装置を試作し、効果を検証していく予定である。この取組により、鹿との衝突事故を減らし、人と動物が安心して共に暮らせる裾野市の実現を目指す。

発表4 11:35～11:55

学 校 名：常葉大学附属常葉高等学校

チーム名：かっぱまきチーム

タイトル：妊娠中の喫煙リスク

系統分類：健康

概 要

妊娠中の喫煙は母体と胎児の双方に深刻な影響を及ぼす。たばこに含まれるニコチンと一酸化炭素は胎盤を通じて胎児に届き、酸素や栄養の供給を妨げる。その結果、流産、早産、低出生体重児、胎盤異常などのリスクが高まる。また、出生後も乳幼児突然死症候群や呼吸器疾患、発達の遅れなどの可能性が指摘されている。受動喫煙も同様に危険であり、周囲の人の協力も不可欠である。妊娠が分かった時点で、禁煙を始めることが、母子の健康を守る最善の選択である。

発表5 12:55～13:15

学 校 名：静岡県立浜松南高等学校

チーム名：「読める暗号文」を作り隊

タイトル：シーザー暗号を用いた「読める暗号文」の作成と性能評価

系統分類：情報

概 要

現代の暗号は第三者が見た際に、一目見ただけで暗号文だと分かってしまうような意味のない文字列をしている。そのため、第三者は、その暗号文を解こうとしてしまう可能性がある。暗号文が一目見たときに、意味のある文字列であれば、解読しようとするのを防ぐとができるのではないかと考えた。本研究では、シーザー暗号を使用して母音と子音のそれぞれをずらす方法を提案し、「読める暗号文」の作成を行った。さらに作成した暗号文がどの程度「読める暗号文」となっているのか性能評価を実施した。その結果、生成した暗号文の約 1/4 (25.1%) が可読性のある暗号文となった。暗号化する平文によって、可読性のある文字が生み出されやすい平文と生み出されにくい平文があることが推測された。

発表6 13:20～13:40

学 校 名：静岡県立伊豆総合高等学校

チーム名：フォト STOP

タイトル：お菓子の自販機設置

系統分類：その他

概 要

伊豆総合高校では「産業社会と人間生活」という科目で、PBL 学習を行っている。今回は企業の協力もあり、「100 万円でかなえたい夢」について探究活動を行った。そこで、私たちの班は「お菓子の自動販売機設置」について検討を行った。最初はお菓子を食いたいという理由から始めたが、ごみ問題や他団体の導入事例などにたどり着くことができた。私たちだけではなく、聞き手にも納得してもらえる発表を心がけた。

教室⑪ C304 教室

発表1 10:20～10:40

学 校 名：沼津市立沼津高等学校

チーム名：のび太

タイトル：アートで沼津市をより活気のある街にしよう！

系統分類：町づくり

概 要

沼津市では、シャッターアートなどを活用した地域活性化の取り組みがある。しかし、その効果や持続性に課題があると考え、「アートを活用して商店街をより活性化するためには」という問いを立て、来訪目的について調査を行った。また、沼津市公認おさかなアートクリエイターの鈴木翔太さんに協力をいただき、アートによる街の魅力発信と成果について調査した。その結果、若者が地域に積極的に関わることが、地域の発信力と魅力をより向上させることが明らかになった。

発表2 10:45～11:05

学 校 名：静岡県立三島北高等学校

チーム名：安全保証委員会

タイトル：熱海の温泉を世界へ

系統分類：町づくり

概 要

私たちは、高校1年生のときから熱海についての研究をしてきた。現地を訪れた際、飲食店が多かったものの、それ以外を売っている店は少なく、熱海に来る観光客のほとんどが静岡や関東圏の人だと分かった。そこで熱海の魅力をもっと色々な地域に伝えたいと思い、外国人や遠方の人をターゲットに、熱海を体験できる熱海限定のバスボムを用いて熱海の魅力を伝えようというビジネスプランを考えた。

発表3 11:10～11:30

学 校 名：静岡県立吉原高等学校

チーム名：経済・経営チーム

タイトル：ナッジを用いた学校環境の向上

系統分類：教育・保育

概 要

駐輪場の環境改善にあたっては、従来の注意喚起のみでは改善が困難であり、行動設計による持続的な改善を図る必要がある。そこで、近年注目されている行動経済学の考え方を踏まえ、強制ではなく利用者が自然と整った行動を選びたくなる「ナッジ」の手法を活用した。具体的には、台数制限を明示するため地面に番号を記入し、1台ごとの区画を白線で示すことで配置を視覚化し、さらに奥から利用してもらうための矢印表示を設けるなど、行動の選択をさりげなく促す工夫を行った。これらの取組により、人は適切な環境設計によって自発的に望ましい行動へと導かれることを実際に確認できた。

発表4 11:35～11:55

学 校 名：静岡県立沼津西高等学校

チーム名：浴衣で歩く宝100選

タイトル：浴衣で歩く宝100選

系統分類：町づくり

概 要

沼津市は一部の魅力しか知られていないと考えた私たちは、「ぬまづの宝100選」と「浴衣」を組み合わせた観光振興を企画した。歴史や自然など多様な観光資源を巡る際、若者に人気の浴衣体験を取入れることで、新たな魅力の掘起こしに繋がたいと考えている。実際に浴衣で各地を訪れて広報用ポスターを作成し、現在は市内の呉服店等に掲示を提案中だ。この活動を通じ、沼津の多彩な魅力を広く発信することを目指す。

発表5 12:55～13:15

学 校 名：静岡県立天竜高等学校

チーム名：天竜高校ボランティア部

タイトル：「文化財×まちづくり」～旧田代家住宅と天竜高校生の挑戦～

系統分類：町づくり

概 要

昨年度、天竜高校ボランティア部では、浜松市中山間地域振興計画の重点方針「地域をプロモーションする」主要政策のうち、「歴史的・文化的遺産を活用した地域づくり」の一環として、高校生による「旧田代家プロデュース活動」を計画・実践することで、地域の歴史や文化を地域活性化に活かし、まちづくり計画の策定に参画することを目標として活動した。今年度は、“「文化財×まちづくり」で地域活性化に貢献！”を目標に、旧田代家住宅の価値を、イベントや商品を通じて地域の人に再確認してもらい、その成果を多くの人に発信していくことで、地域に貢献していきたいと思っている。行政や大学との連携を通して地域の文化財を高校生がプロデュースした具体例を発表する。

発表6 13:20～13:40

学 校 名：常葉大学附属常葉高等学校

チーム名：にくまんチーム

タイトル：コロナワクチンをどうしたら安心して打てるのか

系統分類：生命・医療

概 要

コロナワクチンを安心して接種するためには、まず正確な情報を得ることが大切だ。政府や自治体、医療機関など公的な情報源を確認し、SNSなどの不確かな情報に惑わされないようにしたい。体調が気になる場合や持病がある場合は、事前にかかりつけ医に相談すると安心である。また、接種当日は十分な睡眠と水分をとり、体調を整えて臨みたい。副反応が出ることもあるが、多くは一時的なもので、感染による重症化リスクを防ぐ効果が期待される。正しい理解と準備が、安心して接種を受けるための鍵である。それを高校生の視点から発表する。

教室⑫ C305 教室

発表1 10:20～10:40

学 校 名：常葉大学附属常葉高等学校

チーム名：笠間綾

タイトル：避難所での健康管理はなぜ難しい？

系統分類：福祉

概 要

「避難所内での健康管理はなぜ難しい？」という問いに対して、「多様な人々が集まるため、それぞれのニーズに合った対応をするのは人手が足りないから。」という主張を立てた。災害時に避難所に多くの人が集まると、個々の状態によってニーズが異なる。例えば、幼児であれば、ミルクやおむつが避難所に用意されているとは限らない。また、沐浴もできないため汗疹などの心配もあり、衛生面での課題もあげられる。それが、障がい者や高齢者、女性などが避難所に集まることを考えると様々なニーズがあると想定される。そこで、看護師という立場からどのようなことができるかを探究していく。

発表2 10:45～11:05

学 校 名：静岡県立榛原高等学校

チーム名：そなえる絵本屋さん

タイトル：にこにこぼうさいえほん

系統分類：防災

概 要

私たちは、絵本で小さな子どもたちに防災を伝えていくプロジェクトをしている。小さい頃から楽しく防災について学ぶことによって、災害の時に正しい行動を取れるようにするのが目的だ。絵本にした理由は、防災について興味を持ってもらうことが大前提なので、絵とわかりやすい言葉で小さい子どもでも理解できるようにしようと思ったからだ。

発表3 11:10～11:30

学 校 名：沼津市立沼津高等学校

チーム名：沼津市交通班

タイトル：より暮らしやすく自転車事故の無い交通環境にしよう！

系統分類：町づくり

概 要

沼津市は、自転車の交通事故が県東部の市町で2番目に多い。そこで、高校生の私たちが普段使う自転車での事故がどこでどのように発生し、どのようにしたら減らせるのかを考え、「より暮らしやすく自転車事故の無い交通環境をつくるためには」という問いを立てた。高校生の多くが着用義務化されたヘルメットを被らずに登校している現状に着目し、ヘルメットを被る人を増やして交通事故に対する意識を向上させるアクションを行った。

発表4 11:35～11:55

学 校 名：静岡県立三島北高等学校

チーム名：なめたけ

タイトル：M_step

系統分類：教育・保育

概 要

本プラン「M_step」は、SDGs 目標4「質の高い教育をみんなに」に着目し、三島市の小学生を対象とした教育支援型ソーシャルビジネスだ。習い事をしていない子どもが体験を通して興味を持ち、「やってみたい」と感じるきっかけをつくる。高校生が講師となり低価格で提供することで参加のハードルを下げ、実際に習い事を始める子を増やし、地域の学びと活性化につなげる。将来へつなぐ三島の地域教育を皆で育てる。

発表5 12:55～13:15

学 校 名：静岡県立静岡東高等学校

チーム名：litrik

タイトル：はいゆ革命！！

系統分類：環境

概 要

廃油の流出は生態系を破壊し、その浄化には多大なコストを要する。私たちは、現状を打破する一歩として、次世代の子どもたちへ環境意識を繋ぐ「廃油キャンドル作り」を企画した。11月までの試作で、クレヨンによる着色や安定した燃焼を確認できたが、点火時に「油の臭い」が残る点が課題だ。今後は、アロマの投入条件や香りの相性を検証し、子どもたちがより親しみやすいキャンドルの完成を目指す。

発表6 13:20～13:40

学 校 名：静岡県立沼津西高等学校

チーム名：今日から美術館は！

タイトル：今日から美術館は!!第一話「未来の夢闇愚悪夢(ミュージアム)」

系統分類：文化の創造

概 要

美術専攻の私たちは、美術をより身近にするため「バーチャル美術館」の活用を考案した。バーチャル技術を活用した展示の実績がある静岡県庁広報課への取材を通して展示作品の3D化や展示手法を学び、試作品の制作に取り組んだ。バーチャル体験を美術に触れる第一歩とし、実際の美術館へ足を運ぶきっかけを提供したいと考えている。この活動を通じ、多くの人が美術の不思議な世界に「沼って」しまうような社会を目指す。

教室⑬ C308 教室

発表1 10:20～10:40

学 校 名：静岡県立伊豆伊東高等学校

チーム名：伊豆伊東 Aチーム

タイトル：どうしたら子どもから高齢者まで地域祭りを運営して楽しむことができるか

系統分類：伝統文化

概 要

私の住む町、大原町の祭りでは古くからの伝統である太鼓囃子があるが、少子高齢化や若者の祭りへ関心の低下により、世代間交流や太鼓囃子を受け継ぐのが困難な現状だ。そこで、私たち高校生は、大人と子どもの仲介となり、子ども達へ祭りの魅力を伝えることができると考え、解決を目指し、探究している。全世代で地域祭りを支え運営し、楽しめる環境を作ることが目標だ。小学生向けの神社紹介ポスターやユーモアを交えたプレゼンを行い、祭りへ興味関心を高めたいと考えている。さらには、この探究成果を地域に還元し、将来的に同様の課題を抱える全国の地域祭りをつなぐアプリやネットワークを形成し、持続的な地域文化の継承を手助けしたい。

発表2 10:45～11:05

学 校 名：静岡県立富士宮北高等学校

チーム名：やさいのしっぽ

タイトル：生ゴミを減らそう?生ゴミをリメイクしてふりかけに!!!

系統分類：環境

概 要

私たちは、家庭ごみを減らすことをテーマに活動した。中でも、家庭ごみの多くを占める生ごみに注目し、捨てるものを再生させるメニューを考えた。人参の皮や大根の葉を使い、ふりかけを作った。生ごみの削減につながるだけでなく、β-カロテンなどの不足しがちな栄養素を摂取でき、健康にも効果が期待できる。さらに、焼却ごみの減少によって二酸化炭素の排出を抑え、環境への負荷の軽減にも貢献できることが分かった。

発表3 11:10～11:30

学 校 名：静岡県立三島北高等学校

チーム名：SZKs

タイトル：ばいかもアプリ

系統分類：環境

概 要

私たちはSDGsの陸の豊かさを守ろう、に焦点を当て特に三島市の環境に目を向けた。私たちの研究テーマである三島梅花藻は三島市特有の藻で、近年数が減少して絶滅の危機に陥っている。そこで私たちは、三島バイカモの個体数を増やしたいと考え、ばいかもアプリを制作しようと思った。三島市の小学生と親をターゲットとして、アプリを使ってバイカモの成長記録の対決をしようとしている。地域同士の繋がりを活かし、利用者のバイカモに対する思いを向上させようと考えている。

発表4 11:35～11:55

学 校 名：静岡県立榛原高等学校

チーム名：Smile Life

タイトル：高齢者も暮らしやすい町づくり

系統分類：福祉

概 要

私たちは、高齢化社会に合った町づくりをしたい。理由は、自分たちの祖父母が元気で暮らせる町にし、私たちが介護される立場になった時に安心できるようにしたかったからだ。具体的には、外出時の危険防止や楽しい企画づくり、介護士の方々のストレス緩和ができればいいなと思っている。

発表5 12:55～13:15

学 校 名：沼津市立沼津高等学校

チーム名：grow

タイトル：日本の農業の未来を救うのは「土のない農業」か？

系統分類：地域経済

概 要

日本の農業では、高齢化による担い手不足や気候変動による収穫量の不安定化が深刻化しており、このままでは将来的に「農業が続けられない日本」になる恐れがある。最近では、土を使わない工場型の水耕栽培が普及し始めており、安定した生産に期待が高まっていることがわかった。これからの農業には、テクノロジーを活用した効率化と、若者が農業に関わろうと思えるような魅力を発信する取り組みの両立が必要だと考えた。そこで、植物工場について調べるとともに、高校生が実際に水耕栽培を行い、今後の農業のあり方を探究する。また、修学旅行で訪れるシンガポールの食料自給率の低さにも注目し、現地の大学生に聞き取り調査を行って、食料問題への取り組みを学び、日本でも活かせる方法を考察する。

発表6 13:20～13:40

学 校 名：静岡県立静岡農業高等学校

チーム名：静岡農業高校園芸部生物工学班

タイトル：静岡市の伝統作物・在来作物の保護と普及活動

系統分類：伝統文化

概 要

静岡農業高校園芸部生物工学班では、静岡市の伝統作物・在来作物の保護と普及活動を行っている。本年度は、在来作物5品目を実際に学校圃場での栽培を実践した。また、地域のこども園を中心に普及活動の一環として交流活動を行った。その活動について報告し、他校の皆さんの意見、感想をいただき今後の活動に生かしていきたいと考えている。

教室⑭ C306 教室

発表1 10:20～10:40

学 校 名：静岡市立清水桜が丘高等学校

チーム名：清水桜が丘高等学校①

タイトル：静岡市の循環社会への取り組み

系統分類：町づくり

概 要

探究学習テーマである「私と地域」をもとに、静岡市の地域振興についての探究学習を行った。循環型社会へ対する全国と静岡市の取り組みを比較し、静岡市ができそうなこと、私たちができることを調べ提案した。

発表2 10:45～11:05

学 校 名：静岡県立伊豆伊東高等学校

チーム名：伊豆伊東 Bチーム

タイトル：どうしたら伊東市の観光需要の拡大ができるか？

系統分類：地域経済

概 要

伊東市の観光需要拡大を目的に、温泉・銭湯の活用促進を軸とした探究を行った。調査の結果、伊東市の観光客は50～60代の首都圏在住者が中心で、若年層の来訪や観光客による温泉利用が少ないこと、さらに老朽化や人手不足といった構造的課題が明らかになった。これを踏まえ、高校と温泉施設が提携し、高校生がインターンシップ的に施設運営に関わる企画を提案した。高校生は受付・清掃・案内などを行い、地域経営を学ぶ一方、施設側は人手不足解消や若年層へのPR効果を得る。アルバイト感覚で取り組めるため継続性が期待でき、双方にとってwin-winな関係を構築できる。今後はこの協働を通して、地域住民や若者層の利用を促進し、伊東市全体の観光活性化につなげていく。

発表3 11:10～11:30

学 校 名：静岡県立湖西高等学校

チーム名：超最強アスレチック宣伝部

タイトル：湖西森林アスレチック公園

系統分類：町づくり

概 要

湖西市には、子どもたちの遊び場所が少ないと感じるため、アスレチック建設により、子どもたちの運動する機会の増加を目指したい。公園のような形にして、イベントなどを開くことで、新たな湖西のPRにもつながる。場所は、湖西連峰の神石山の中腹から山頂を想定し、小さい子どもから中高生まで様々な年齢の子どもたちが遊べるアスレチックを建設する。

発表4 11:35～11:55

学 校 名：沼津市立沼津高等学校

チー ム 名：アリちゃんず

タイ ト ル：インバウンドによる地域活性化

系 統 分 類：地域経済

概 要

現在人手不足などの影響により、地域経済が徐々に衰退しつつある。こうした中で、沼津市の経済を活性化させるためには、観光事業による収益の向上が重要であると考えられる。沼津市には、海や山などの豊かな自然環境があり、そこで取れる海産物や果物など、地域資源に恵まれている。しかし、現状では首都圏からの国内観光客が多く、外国人観光客の訪問は非常に少ない。外国人観光客は、滞在期間こそ短いものの、国内観光客に比べて一人当たりの消費額が高く、地方創生や地域経済の発展において大きな効果が期待できる。そこで本探究では、沼津市が持つ自然や食とといった地域資源を生かし、より多くの外国人観光客を呼び込むための方策を、観光事業者へのインタビューやフィールドワークを通して考察する。

発表5 12:55～13:15

学 校 名：静岡県立三島北高等学校

チー ム 名：NOA-SKY

タイ ト ル：バイオマス発電、HACCO して輝く未来

系 統 分 類：環境

概 要

食品廃棄物を活用したバイオガス発電である。国内では食品ロスが年間 464 万トンに上り、廃棄物の有効活用が大きな課題となっている。本研究では、廃棄物を燃料として利用し、嫌気分解によるメタン生成を通じて環境に優しい発電の可能性を探究する。発電コストと廃棄処理コストを比較し、実用化の可能性を検証することで、再生可能エネルギーへの理解を深め、課題解決に向けた思考力や発表力の向上を目指す。

発表6 13:20～13:40

学 校 名：静岡県立清水南高等学校

チー ム 名：現代日本創造の集い

タイ ト ル：現代日本の商業を東南アジア（シンガポール・マレーシア）から紐解く

系 統 分 類：地域経済

概 要

なぜ、人は知らないものにも関心を抱くのか。なぜ、日本の商業における ICT・AI 活用は遅れていると言われるのか。なぜ、日本の接客態度は高く評価されるのか。日本の商業の強みと弱みは、海外と比較することで見えてくる。近年急速な成長を遂げるアジア NIES に属するシンガポールは、30 年間経済成長が停滞した日本と何が違うのか。研修旅行で訪ねたシンガポール・マレーシアの商業の現状を分析し、現代日本に提言する。

教室⑮ C307 教室

発表1 10:20～10:40

学 校 名：静岡県立駿河総合高等学校

チーム名：テトラ

タイトル：ペットの防災について

系統分類：防災

概 要

私達は、防災とペットについて探究することにした。目的は、災害時にペットを避難所へ連れていけないことや、住宅の倒壊によって逃げてしまうことによる、ペットの野生化、死亡などを減らすことだ。そのために飼い主が、災害後もペットと一緒に過ごすために必要なものや、事前にやっておくべきことを知る必要があると思い、探究することにした。私達は静岡県地震防災センターで、災害が起こる仕組みや防災のいろはについて学んだ。そこでは、ペットと避難する際に必要な防災グッズも展示されていたが、あまり充実していないことが分かった。また、アンケートによる防災とペットに関することへの実態調査を行った。目的は、防災とペットに対する意識調査を行うためだ。私達はアンケートを通して、どのような情報が必要か知り、それを提供することで、ペットとの防災について意識を高め防災について考える参考になれば良いと考える。

発表2 10:45～11:05

学 校 名：沼津市立沼津高等学校

チーム名：星織り

タイトル：気づいていない男女のリアルな世界線

系統分類：その他

概 要

近年、男女の差をなくすことが企業、政策などの様々な場面において重要な課題になっている。実際に、私たちの高校では、制服の選択肢の多様化や、校則の改正等の取り組みが行われている。このような工夫により、私たちの世代は男女の差の少ない生活が当たり前になりつつある。一方、社会に目を向けると、依然として多くの面で不公平な点がある。例えば、現代社会にどれだけの男女格差が存在しているか調べてみたところ、賃金格差、非正規雇用の割合など深刻な社会問題となっている事柄が多くあることが分かった。このような問題があることを知り、これからこの社会に出ていく私達にとって、この男女格差の意識の問題に視点をおいて解決策を見出そうと考えた。しかし、これは解決することのない問題だと思っており、その差を少しでも減らして多くの人がそのような理不尽な目に合わず、自分らしく生きることの一助となることを願って探究する。

発表3 11:10～11:30

学 校 名：静岡県立清流館高等学校

チーム名：学問のすゝめ

タイトル：「好き」と「苦手」は共存できるのか — 「楽しい学び」を通した不登校
予防の可能性—

系統分類：教育・保育

概 要

私たちは、子どもたちの勉強に対するイメージに焦点を当てて探究を行っている。きっかけは、授業の面白さを見出せず、不登校になっている子どもが一定数いることを知ったからだ。そこで私たちは、「学びに対するマイナスイメージを払拭するにはどうすればよいか」という問いを立てた。そして、少しでも多くの子どもが勉強嫌いを理由に不登校になってしまうことを予防したいと考えている。まず私たちは、「楽しく学ぶことで、学習へのマイナスイメージを軽減できるのではないか」という仮説を立てた。次に、この仮説を検証するために、「楽しく学ぶ」ことを目的としたイベントを行った。イベントの反省点から、新たな問い「子どもが楽しいと感じる学びとは何か」が生まれた。今後は、「遊びに学びを組込む」と「集団授業の魅力発信」を軸に探究を進め、再度イベントを行う予定である。この探究を経て、不登校予防の糸口が見つかり私たちは信じている。

発表4 11:35～11:55

学 校 名：静岡市立清水桜が丘高等学校

チーム名：清水桜が丘高等学校②

タイトル：静岡市にある不要な資源で環境に優しい資源を作り出せるのか

系統分類：環境

概 要

探究学習テーマ「私と地域」をもとに、静岡市の地域振興について探究学習を行った。静岡市が抱える資源に関する問題を調べ、静岡市ができる資源のリサイクル可能性や私たちができることを提案した。

発表5 12:55～13:15

学 校 名：静岡県立御殿場南高等学校

チーム名：cheePro（チープロ）

タイトル：御殿場 夢をつなぐまちプロジェクト

系統分類：町づくり

概 要

御殿場市では少子高齢化が進み、特に若年層の市外流出による地域の担い手不足が深刻化している。チームは「高校生が地域に戻って働きたいと思える出会いをどうつくるか」という問いを立て、地元と若者をつなぐ仕組みづくりに取組んだ。高校生と地域で働く大人へのインタビューを行い、双方の思いや仕事への姿勢をまとめた「夢をつなぐまちポスター」を計23枚制作した。これは、高校生の夢と地域の大人の生き方をつなぐ象徴であり、「御殿場でも夢が実現できる」という希望を広めることを目的としている。また、御殿場市の協力をいただき、ポスターは市役所や駅などに掲示し、地域の人々が互いの思いに触れ合える機会を創出する。今後は、アンケートによる効果検証や対話イベントの開催を通して、より多くの高校生が地域に関心を持ち、「地元で働きたい」と感じられるまちづくりを目指す。

発表6 13:20～13:40

学 校 名：静岡県立三島北高等学校

チーム名：シン・災害対策委員会

タイトル：回してつなぐ、健康とエネルギーの循環

系統分類：環境

概 要

運動不足が深刻化する現代社会に着目し、健康促進と発電を同時に行える「人間ホイール」を提案する。SDGs 目標3・7を軸に、デスクワークが多い社会人や子どもを主なターゲットとし、企業など人が集まる場所へ設置する。ハムスターの回し車を人間用に応用することで、楽しみながら発電できる点が特徴である。発電量に応じたポイント制度や社員食堂の割引を導入することで参加を促し、運動習慣の定着、ストレス軽減、生産性向上などの変化を生み出すことを目指す。